

世界中を沸かせているサッカーW杯

ブラジルで開かれているサッカーW杯。期待されていた日本は予選で敗退してしまいました。がっかりしました。しかし20人の選手がボールを追ってフィールドを走りまわる熱戦は、確かに私たちを熱狂させる迫力がありますね。

審判にレッドカードを突きつけられて退場させられると戦局が一変してしまいます。ぶつかり合いで発生する反則の恐ろしさも、サッカーならではの魅力の一つなのでしょう。

頭突き反則での一番の語り草は、8年前ドイツ大会での決勝戦で、終了10分前にフランスの主将ジダンが、イタリア選手の胸を頭突きしてレッドカード。その結果フランスは敗れて、優勝を逃してしまった出来事でしょう。

悪夢のような退場劇に、マスコミは大きな見出しで「名選手とは思えない行為」と一斉に彼を非難し、せつかく選ばれた最優秀選手も取り消したと言う者さえ出ました。

以外な真相

ところが3日後にジダンがフランスのTVで釈明し、真相が分かりました。彼を徹底的にマークしたイタリア選手が、激しいチャージだけでなく、侮辱的な言葉の暴力を浴びせ続けたようです。

「母や姉を傷つけるひどい言葉を繰り返えされた。言葉はしばしば暴力行為よりもきつい。私を最も深く傷つける言葉だった。とても自分の口では出せない。」「20億、30億人が見守る中での私の行為は許されないもので、特にTVを見ていた子どもたちに謝りたい。だが頭突きについては後悔していない。後悔すればマテラッツィの言葉を認めることになるから。」「W杯決勝の、しかもサッカー人生の終了10分前に、面白半分にあんなことをすると思いますか」。

世界中にどれほど多くのサッカー選手がいることでしょうか。一流選手になるには、ずば抜けた才能と共に、厳しい訓練と節制が必要です。しかもスポーツはフェアプレイを大事にします。ジダンはその頂点に立つ最優秀選手でした。しかも引退直前の34才でした。サッカーの世界では人間的にも最高水準の人物ではないでしょうか。しかしその彼が、相手の暴言に忍耐できず、スポーツ精神と相反する行為を世界中の人が

注目する中でしてしまったのです。

新聞には「挑発するのもサッカーのうち」と言われていると書かれていました。激しいチャージや口汚い暴言を浴びせて相手を挑発し、反則させる**駆け引き**が、サッカー試合のフィールドでは繰り広げられていると言うのです。ではジダンに人格を深く傷つける暴言を浴びせ続けたマテラッツィは、イタリアに勝利をもたらした功労者だったということになるのでしょうか。TVを見ているだけでは見えてこない、人間のどろどろした**醜いぶつかり合い**がスポーツの最高の試合でも行われていたことで、私はとても惨しい思いにさせられました。

鬼子母神信仰のいわれ

私たち日本人になじみ深い信仰の対象に、鬼子母神があります。この女神は子どもを沢山産みましたが、夜になると人里に現れて他の子どもを食い荒らす**夜叉**でした。釈迦は彼女最愛の末っ子を隠してしまわれました。彼女は狂いまわって世界中を探しますが見つかりません。困り果てて釈迦に助けを求めました。

釈迦は、子を失う親の苦しみを悟らせて仏法に帰依させ、彼女を**安産と子供の守護神**にさせました。幼児を食い殺す夜叉と幼児を優しく護る女神。最高の愛といわれる母性愛をもつ女性の内面に、幼児を食い殺す夜叉が同居していることを見据えて、仏の慈悲を求めよという信仰ですね。

以前に奈良の高校一年生が自分の家に放火して母と弟・妹の3人を焼死させてしまいました。彼は剣道二段でその日も剣道の稽古を済ませて帰宅しています。近所のおばあさんが、「文武両道にずば抜けた生徒」と言っています。高校一年で剣道二段とは、優秀な剣道選手です。小学生時代から剣道に励んだ高校生の内面にも、大切な肉親を殺す**夜叉**が住み着いていたのです。またサッカーの世界的超一流選手の内面にも、相手の人格を壊してまでも勝とうとする**夜叉**が住み着いているのですね。

私たちは皆、わが内に夜叉を住ませているのではないのでしょうか。何時狂わされて、身を滅ぼす行いをしてしまうか分かりません。夜叉を恐れ、わが身を守る心掛けが大切ですね。

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり

神もその人の内にとどまってくださいませ。 聖書